

科目分類	看護専門科目 応用看護		開講時期	3年	前期
科目名	地域看護学活動論Ⅱ				
選択/必修	選択	単位数(時間数)	2単位	60時間	授業形態 演習
担当教員	鈴木 隆史				
メールアドレス	t-suzuki@tsuruga-nu.ac.jp		オフィスアワー	原則として講義の前後	

授業目的	<p>様々な情報から地域における健康課題を見出すことができる能力を習得する。さらに、その課題解決を具現化する活動としての「保健師の地域づくり」に焦点を当てながら、公衆衛生やヘルスプロモーションなどの基盤となる概念、政策立案過程、組織的取り組みのプロセスを理解するとともに、保健福祉行政の概要を理解する。</p>
授業概要	<p>地域の保健統計や資料から健康課題を把握する演習を通して、地域の理解と健康課題を見出す能力を教授する。</p> <p>地域の健康課題解決に向けて、地域づくりに焦点を当て、事例検討を通してヘルスプロモーションの考え方や施策化について教授する。</p>
授業計画	<p>第1回 地域の特性と地域看護活動</p> <p>第2回 地域における保健活動の実際(母子保健活動①)</p> <p>第3回 地域における保健活動の実際(母子保健活動②)</p> <p>第4回 地域における保健活動の実際(母子保健活動③)</p> <p>第5回 地域における保健活動の実際(母子保健活動④)</p> <p>第6回 地域における保健活動の実際(難病保健活動①)</p> <p>第7回 地域における保健活動の実際(難病保健活動②)</p> <p>第8回 地域における保健活動の実際(感染症対策①)</p> <p>第9回 地域における保健活動の実際(感染症対策②)</p> <p>第10回 地域における保健活動の実際(健康危機管理①)</p> <p>第11回 地域における保健活動の実際(健康危機管理②)</p> <p>第12回 地域看護過程の実際(1)</p> <p>第13回 地域看護過程の実際(2)</p> <p>第14回 保健福祉行政の基盤となる理念</p> <p>第15回 地域の健康問題の把握 (1) 活動目標の設定、活動計画の立案・評価について</p> <p>第16回 地域の健康問題の把握(2) 施策化、事業化、政策について</p> <p>第17回 地域看護過程の演習(1) グループワーク</p> <p>第18回 地域看護過程の演習(2) //</p> <p>第19回 地域看護過程の演習(3) //</p> <p>第20回 地域看護過程の演習(4) //</p> <p>第21回 地域看護活動の演習(5) //</p>

	<p>第 22 回 地域看護活動の演習 (6) ”</p> <p>第 23 回 地域看護活動展開演習発表 (1)</p> <p>第 24 回 地域看護活動展開演習発表 (2)</p> <p>第 25 回 ヘルスプロモーションと公共政策 (理論編)</p> <p>第 26 回 ヘルスプロモーションと公共政策 (実践編)</p> <p>第 27 回 地域づくりを推進する行政のしくみと機能 (行政のしくみと機能)</p> <p>第 28 回 地域づくりを推進する行政のしくみと機能 (保健医療福祉計画)</p> <p>第 29 回 地域保健医療福祉計画の実際 (福井県における取組①)</p> <p>第 30 回 地域保健医療福祉計画の実際 (福井県における取組②) / 全体まとめ</p>
<p style="text-align: center;">教材 参考文献等</p>	<p>教科書</p> <p>(1) 国民衛生の動向 (2021/2022) 厚生労働統計協会</p> <p>(2) 最新 公衆衛生看護学 第 3 版 2021 年版 各論 1 宮崎美砂子 ほか編集 日本看護協会出版会</p> <p>(3) 最新 公衆衛生看護学 第 3 版 2022 年版 各論 2 宮崎美砂子 ほか編集 日本看護協会出版会</p> <p>(4) 佐伯和子編著 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第 2 版 医歯薬出版株式会社</p> <p>参考書</p> <p>(1) 新版保健師業務要覧 第 4 版 2022 年版 日本看護協会出版会</p> <p>(2) 最新 公衆衛生看護学 第 3 版 2021 年版 総論 日本看護協会出版会</p> <p>(3) 鈴木和子・渡辺裕子 ほか 編 家族看護学 理論と実践 第 5 版 日本看護協会出版会</p> <p>(4) 公衆衛生がみえる 医療情報科学研究所 編 メディックメディア (最新版を参照すること)</p>
<p style="text-align: center;">成績評価 基準・方法</p>	<p>① <u>レポート (50%)</u> : レポート課題は事前に伝達し、評価の視点は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を的確にとらえて展開しているか ・論旨が一貫しているか ・自己の考え方を具体的に表現しているか ・参考文献を用いているか <p>② <u>筆記試験 (30%)</u></p> <p>③ <u>グループワークにおける課題取り組み態度 (20%)</u></p> <p>①、②、③を総合的に判断する</p> <p>ただし、筆記試験は 100 点満点で 60 点以上をとることとする。</p> <p>出席日数は全講義時間の 2/3 以上であることが筆記試験の受験資格要件とする。</p>

履修要件	地域看護学活動論Ⅰを履修していること。
留意事項 その他	<p>本科目を修得していないと、地域看護学実習Ⅰ・Ⅱ及び地域看護管理実習は履修できません。</p> <p>教科書(2)、(3)について 2021年度に「最新 公衆衛生看護学 2021年版 各論1(各論2)」を所持していなかった場合は、最新刊の「<u>最新公衆衛生看護学(各論1、各論2)</u>」を購入すること</p>
実務経験のある 教員の教育方法	<p>保健師としての対象者別保健活動・保健事業の経験を活かして、地域看護学の対象者別支援方法の法的根拠と理論的根拠および保健事業の企画実施評価について講義および演習を行う。</p>